

## 三浦市立初声小学校

研究テーマ：自分の想いをもち、伝え合う子の育成

### 1 実践の目的

前年度に引き続き、研究テーマを「自分の想いをもち、伝え合う子の育成」とした。今年度も内容や方法を工夫しながら主体的・対話的で深い学びの実現に向け取り組んだ。

### 2 実践の内容

#### (1) 校内研究体制

各学年に研究推進委員を置き、単元等の検討を充実させるため、学年→拡大研究推進委員会(研推+学年)→全体会で行った。

#### (2) 研究内容

##### ① 生活科・総合的な学習の時間を中心に研究テーマにつながる単元・授業づくり

教科横断的な取組を進め、学びを深めるカリキュラム・マネジメントを目指した。年度当初に生活科・総合的な学習の時間の単元作りについて校内で研修会を行った後、学年で教材研究や単元作りに取り組んだ。また長期休業中に教材研究を進められるよう7月に鎌倉女子大の相澤昭宏先生を講師に迎え、総合の単元づくりについての研修会を行った。夏休みに学年で作成した単元構想を、8月末の研究全体会で共有し、検討を行った。

##### ② 研究テーマ・重点目標につながる有効な手立て

指導案に「研究主題との関わり」という項目を設け、授業者が単元・本時でどのようなねらいをもって具体的に子どもたちの学びを深めようとしているのかを明らかにした。

また、授業後の協議会では研究テーマや重点目標につながる有効な手立てを整理し共有した。

##### ③ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

児童の実態から、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、主体的・対話的で深い学びを目指した。

昨年度、「個別最適な学び」や「協働的な学び」についての理解が不十分であるという課題があった。具体的なイメージを共有し単元・授業づくりにいかしていくために、三浦市教育委員会指導主事を講師として招き5月に研修会を行った。

また、朝会で、全校の子どもたちに学び合うために大切なことを伝え、教室にも掲示している。

学ぶ時には

- ・ 思いを伝え合う
- ・ あきらめない
- ・ つなげて考える

#### (3) 研究授業、研究協議の様子

##### ① 研究授業について

今年度も学年で単元を計画し、生活科・総合的な学習の時間の代表授業として低中高学年部で一授業ずつ行い、全体での授業案検討・協議会をもち研究を深めた。さらに、全員一授業を公開し、学年部で見合うように計画した。また個別最適な学びの視点から特別支援学級の研究授業も実施した。

## ②協議会について

PDCA サイクルを活用し、何が課題で何が成果だったのかを分析し、単元の見直しや有効な手立ての共有を大切にしました。そして、授業を見る視点を明確にし、次の授業にいかせるようにしました。

校内研究を自分事として捉え、活発な意見交流ができるように、研究授業後に気づいた点を付箋に書き、グループで協議を行った。協議会の最後に全体で協議の内容を共有した。さらに研究推進委員会で具体的にまとめ、次の研究全体会で共通理解を図った。

## 3 実践の成果と課題

### (1) 成果

今年度の研究を振り返り、昨年度の授業研究から単元づくりや授業づくりの視点として挙げられた以下の点についても今年度も共通認識できた。

- 学びが深まるような活動と活動をつなげた単元計画
- 体験をいかした単元の見直し、体験活動が設定できないときの展開の工夫
- 個々の考えや情報をもつための手立て
- ねらいに合った深い学びにつながる発問や展開の工夫
- 思考の助けとなるワークシートの活用
- 学びを深める効果的なグループ活動
- 話し合いの方向性が見える視点の提示
- 話し合いを深める方法

### (2) 課題

学びづくりの児童アンケートでは、「問題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができた」に9割以上が肯定的な回答をし、探究的な学習に意欲的に取り組もうとしていることがわかった。子どもの意欲を高める学習課題を設定し、学びを深

めていくことを目指していくことが必要だと感じた。

しかし、大きな課題は、単元構想は立てたものの準備不足で単元の開始が遅れ、学習が深まらなかった学年があったことである。子どもたちの主体的・対話的で深い学びにつながる生活科・総合的な学習の時間の単元づくりにつなげるためには、やはり教師の教材研究、見直しをもった単元づくりの重要性を感じた。研究授業後の協議を深めていくうえでも、教材研究・めあてを明確にして授業作りをしていく必要があった。さらに大単元の取組では、PDCA サイクルを活用し、ねらいや子どもたちの学びに合わせて、当初の単元計画を見直しながら学びを深めていくことが必要である。

## 4 今後の展開

研修会や研究授業を通して、テーマ設定、ねらい、教材、学習活動、有効な手立てなど多くを学んだが、それらをどう組み立て深い学びにつなげていくか、研究を推進していきたい。そして、教師自身が試行錯誤しながら単元を構想することや、子どもと授業をつくることに楽しさを感じる経験を積み重ねてほしい。また単元や授業作りに加えて、小中連携や学力向上を目指すことも視野に入れながらテーマに迫る取り組みをしていきたい。

研究テーマに迫る単元・授業づくりの共通した視点は、他教科のどの授業にも生かすことができる。教科横断的なカリキュラム・マネジメントを意識しながら学校全体として取り組んでいきたい。

子どもたちの課題を解決していくためには、実態を踏まえた授業改善が必要である。今後も育てたい子ども像に向け、内容や方法を工夫し、子どもたちの主体的・対話的で

(別紙様式)

深い学びの実現に向けて取り組みたい。